



# ママの保健室



## 今回のテーマは「子どもの目の健康」について

文部科学省が2022年度の「学校保健統計調査」で公表した結果によると、視力1.0未満の子どもが過去最高を更新し、視力低下していることがわかりました。コロナ禍での生活環境の変化、電子機器の普及により乳幼児期からテレビ、ゲームに触れる機会が増えたことも影響しているのではないのでしょうか。今回は子どもの目の健康について、釧路市健康推進課・清水雄二さんにお話を伺いました。



### 質問 1

2023年度より目のスクリーニング検査、スポットビジョンスクリーナーが健診項目に導入されたそうですが、どのような検査ですか？

**A** 釧路市では2023年6月より、3歳児健診の会場でスポットビジョンスクリーナー（以下、「機器」）による屈折検査を行っています。機器の大きさは一眼レフカメラ位です。検査は、椅子に座った保護者がお子さんを抱っこして行います。1m程度離れた位置からお子さんの目に機器を向けて、目の写真を撮影します。機器から点滅した光と小鳥のさえずり音が出て、10秒程度で自動に検査が行われます。今のところ、ほぼ全員のお子さんが検査できています。



### 質問 2

スポットビジョンスクリーナーで検査した結果はいかがでしょうか？

**A** スポットビジョンスクリーナーは、あくまでスクリーニングであることから、機器による検査結果に加え、以前から行っている視力検査や目に関するアンケート結果、医師の診察により眼科医療機関を紹介しています。眼科医療機関を受診した方のうち、半数以上はその後も経過観察や治療が必要となっています。受診が必要と判断された場合は、必ず受診することが大切です。



この機械で検査をしています

● 教えていただいたのは  
釧路市健康推進課保健師 清水 雄二 さん

視力は3歳ごろまでに急速に発達し、8歳ごろになると成人と同じくらいになります。視力は、学力にも影響があると言われており、視力の発達のためにも、3歳児健診におけるスクリーニング検査は大切です。



### 質問 3

検査結果でわかることは？

**A** 屈折検査は、ピントが合うために必要な度数（屈折）を調べる検査で、眼位異常（斜視）や屈折異常（遠視・乱視・近視・不同視）を調べることができます。右目と左目の見え方に左右差がある場合、日常生活では気づかないことが多く、8歳ごろまでの視力が育つ時期（感受性期間）に適切な対処を行わなければ弱視になる可能性があります。また、眼位異常や屈折異常は見え方の異常だけではなく、目の病気のサインとして出ている場合もあるため、早期に眼科医療機関へ受診するようすすめています。



### 質問 4

保護者が子どもの目の健康で留意すべきことはありますか？

**A** 保護者が生活の中で、お子さんの見え方をよく観察することが大切です。テレビや本を極端に近づいて見る、頭を傾けたり横目で見る、目を細めて見るなどの行動があれば、眼科医療機関への受診をおすすめします。また、メディア（テレビ、スマートフォン、タブレットなど）の長時間の利用による影響は、視力だけではなく、コミュニケーション能力の低下や運動不足になるなど、お子さんの育ちにも影響を与える場合があります。目だけではなくお子さんの健康を守るため、利用頻度や時間について家庭の中でルールを決め、保護者と一緒に会話を交わしながら上手に付き合うことが大切です。